



今回視察するGIS出管理された森信林業(株)の森林

第1回 愛媛大学森の国 学遊会 移動大学 in 松野町

森林管理講座 開催のご案内

平成27年11月21(土)～22日(日)

第1時限：森林管理 視察 (少彦名神社を支えた森の視察) 和田耕一非常勤講師

第2時限：森林管理 実習 (松野町まきステーション視察) 山田容三教授

第3時限：森林管理 講義 (講義テーマ：森林管理と人間) 山田容三教授

懇親会 その後に松野町にて宿泊

第4時限：森林管理 視察 (GISで管理された森林の視察) 森信光夫非常勤講師



主催 愛媛大学 森の国 学遊会

移動大学 森林管理講座 開催プログラム

http://goo.gl/maps をクリックすれば、google Map へ移動します

日付	場所/地名/名称	集合時間	時刻/時間	学遊会移動大学の演目	特記・備考	住所/移動経路地図URL	
11月21日 土曜日	フジ夏目店	06:50	07:00	<チャーターバスでの移動> 予約制・28名まで	・集合時間の厳守 ・各自昼食の弁当持参	松山市夏目甲 79 https://goo.gl/maps/5cPNWp3a2bq	
	愛媛大学農学部 樽味キャンパス	07:20	07:30	その他の方は現地集合 4WD車所有の方は 別便乗合を願います	・集合時間の厳守 ・各自昼食の弁当持参	松山市樽味 3-5-7 https://goo.gl/maps/goJN9FWVVBs	
	少彦名神社	08:15	08:25 2時間10分 10:35	森林管理講座Ⅰ 少彦名神社を支えた森の視察	・拝観料：200円/人 ・神社内にはトイレ有	大洲市菅田町大竹乙 937 https://goo.gl/maps/9rFYPEJOnIT2	
	南予森林組合 松野支所	11:20	11:30 30分	森林管理講座Ⅱ 松野町まきステーション視察		松野町豊岡 4465 https://goo.gl/maps/4ccXB7GkhUy	
	松野町 山村開発町民センター			12:00 50分	<持参弁当での昼食会>	・講義後10分の休憩	松野町松丸 303 https://goo.gl/maps/LdNFbMTxfI2
				13:00 3時間00分 16:00	森林管理講座Ⅲ 講義テーマ：森林管理と人間		
				16:10 50分 17:00	<意見交換会>		
	レストラン 遊鶴羽		17:15 2時間45分 20:00	<親睦会>	・参加者有料：4,500円 (予約制です)	松野町延野々 1510-1	
民宿(分宿)		20:20 朝食：07:00 08:00	<自由時間>	・宿泊者有料：5,500円 (予約制です)	民宿住所等は後日通知予定 https://goo.gl/maps/iEk3Y3qhuWS2		
11月22日 日曜日	指定集合場所	08:20	08:30 30分	<4WD車での移動> 柿原山第1団地の視察現場まで	11月下旬の山はとても危険です。各自安全には十分配慮して頂き、防寒服・登山靴・雨具・着替えなど十分な装備をご持参してご参加ください。 一般参加で山の経験の少ない方は、下記の事務局古川までお問い合わせください。 事務局 古川知宏 h346xp@icloud.com	国道320号とスーパー林道交差点	
	森信林業(株) 柿原山第1団地		09:00 2時間30分 11:30	森林管理講座Ⅲ GISで管理された森林の視察		須賀川ダム湖上流の指定場所 国道320号スーパー林道交差点から 南に車で約30分上った柿原山周辺	
	指定集合場所		12:30 30分	<4WD車での移動> 視察現場からバス駐車場まで移動		国道320号とスーパー林道交差点 https://goo.gl/maps/Qkz1e5B1XuQ2	
	道の駅みなとオアシス きさいや広場		13:00 30分	<休憩・お土産>		宇和島市弁天町 1-318-16 https://goo.gl/maps/s87MST53Tmr	
	愛媛大学農学部 樽味キャンパス		13:40 1時間20分			松山市樽味 3-5-7 https://goo.gl/maps/N1mfLE83RM82	
	フジ夏目店		15:00 30分			松山市夏目甲 79	

連絡先： 愛媛大学 森の国 学遊会 事務局 永井 敦： sp4d2k59@kind.ocn.ne.jp
(会員は年度別幹事にご連絡ください) 佐伯欣一： ksaeki282108@gmail.com

森林管理講座 I : 少彦名神社を支えた森の視察 1-1

年月日：2015年11月21日

時間：午前8:25～10:35

場所：少彦名神社参籠殿

住所：大洲市菅田町大竹乙937

案内人：和田耕一非常勤講師

集合時間：午前08:15必着

森の案内人：林業家 木藤幸治さん・林和男名誉教授

Wikipediaとリンク → [少彦名神社](#)

HPとリンク → [おすくな社中](#)

・・・・・・・・視察会のテーマ・・・・・・・・ 地域の文化財を支えてきた周辺の森林を考える ～ 少彦名神社参籠殿を例にして ～

森の視察会概要

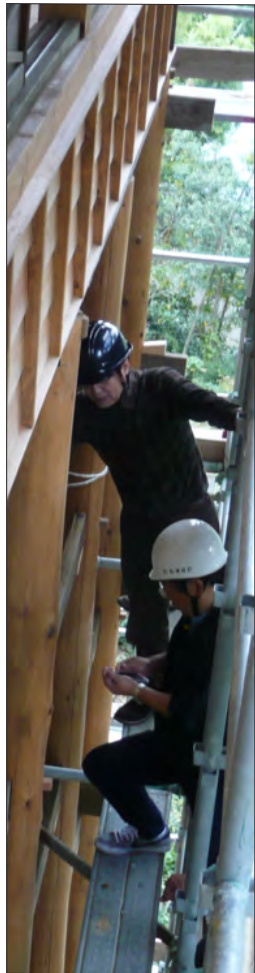
かつて日本の建築物は大きなお城も含めて木造が普通でした。多くの場合、地元の木材資源を使用していたと思われます。当時の森林の多くは薪炭林で、どこにでも建築に適した樹種があったわけではなく、森林所有者や森番人は建築に欠かせない存在でした。一方で、地域には大工職人がいて、建築物は森林所有者と大工職人の共同作業でした。中には、独創的な大工職人もいて、いろいろな建築物に挑戦してきました。大洲の少彦名神社の参籠殿もその一つで、ほぼ全体が懸けづくりの上にあるという驚くべき建築物です。

しかし、参籠殿は時代とともに老朽化が進み、改修することになりました。当然修復には木材が必要ですが、地元の森林所有者が寄付をしてくださることになり、修復に必要な形状(太さ、枝下高、曲がりなど)の木材の調査を行い必要な本数を選定しました。その後、剥皮、製材、加工を行い地元大工が改修を行いました。

だが改修で終わりではなく、参籠殿を50年後100年後にも引き継ぐためには、地域の方々の理解が必要で、地元有志が大鋸挽きイベントを行っています。今回の見学では、森林 - 建築 - 地域活動と言う視点で参籠殿を見て頂きたいと思います。



森林管理講座 I : 少彦名神社を支えた森の視察 1-2



少彦名神社 参籠殿の概要

少彦名参籠殿は、京都清水寺のように山の斜面にへばりつく「懸け造り」の建物です。当殿は伝統的な懸け造りに加え、洋風小屋組み・筋交い・全面ガラス窓など西洋的な手法を導入した「近代の懸け造り」とも呼ばれ、昭和9年に完成しています。その大きな特徴は、使用木材がとても細く軽やかな姿が風情を醸し出すと共に、単に象徴的な神社でなく地域の集会所として利用されていたことです。

その後残念ながら建物は利用されることなく放置され老朽化が進むなか、それを憂う地元有志「おすくな社中」を中心に、その優雅な姿の再興と地域コミュニティを再生する「普請」を展開しています。普請とは今では死語となっていますが、普く（あまねく：広く）資金・資材・労力の提供を請い（こい：求め）建物を完成することです。

当殿は完成当時の普請を顕彰し、情報化社会に対応して地域から国際社会にまで普く協力を請い、多くの人々の「奉仕の精神」により修復された建物です。



案内人 和田 耕一氏のプロフィール

略 歴 1973年 福井工業大学卒業

1977年 和田建築工房 現在に至る

受賞歴 2012年 日本建築学会賞

受賞理由：戦後木造モダニズム建築として八幡浜市立日土小学校の保存と持続的活用

設計姿勢 林業と建築連携の循環型建築生産研究

HPとリンク → [和田建築設計工房](#)



森林管理講座 II： 松野町まきステーションの視察 2-1

年月日： 2015年11月21日（土曜日）

時間： 午後11:30～12:00

場所： 南予森林組合 松野支所

住所： 北宇和郡松野町豊岡 4465

案内人： 愛媛大学森の国 山田容三 教授

集合時間： 午前11:20 必着

・・・・・・・・視察会のテーマ・・・・・・・・

小さな山のまちが始めたバイオマス利用の中核拠点 ～ 多様な森との付き合いを考える ～

まきステーション視察の概要

昭和35年から40年ごろまでは木材は燃料としての利用が主流でした。太田猛彦先生の「森林飽和」にあるように、戦前まで日本の山は至る所はげ山だらけでした。それほど木材は燃料として使われていました。しかし、化石燃料が使えるようになってからは、特に日本においては、燃料として全く考えられなくなりました。それも一因となって日本はどこでも人工的に植栽した森林に覆われています。

現在木材は用材利用が主ですので、樹木の60%位しか森林から搬出されません。用材にならず使い道のない部位を運び出す費用は誰も負担しないから当然です。最近、発電などで利用がでてきたため、発電施設の近くでは搬出比率が上がっていると聞きます。折角燃料になるものを森林の中で腐らせ二酸化炭素を排出するのはもったいないので、地域で燃料として利用できるシステムを作り、それにより地域からお金が流出しない工夫をすることが大切です。

今回視察のまきステーションは、大規模ではなく、軽トラで運び出すことも考えられており、地域の雇用、化石燃料購入による域外へお金の流出防止、二酸化炭素放出の削減などに貢献できる取り組みです。また何より、林業の一助になるチャンスです。ただいったん便利なシステムを知った人間にとっては、よほどのシステム開発をしなければ長続きしない心配もあります。温故知新の知識を開発する必要があります。そのような観点で薪ステーションは、森林管理から地球温暖化まで考えるきっかけになり、まさに“**thinking globally, acting locally**”の見本のような見学会です。

森林管理講座 Ⅲ： 講義テーマ：森林管理と人間 3-1


年月日： 2015年11月21日（土曜日） 時間： 午後13:00～17:00
（講義：13:00～16:00・意見交換会：16:10～17:00）
場所： 松野町山村開発町民センター 住所： 北宇和郡松野町松丸303
案内人： 愛媛大学森の国 山田容三 教授

・・・・・・・・講義のテーマ・・・・・・・・

『森林管理と人間』

多彩な個性を持つ森と人との関わり合いは多様
～ 森に合わせた現場主義を求めて ～

移動講義の概要



森林所有者はそれぞれ自分の森林管理の哲学を持っています。しかし、成功するとそれがあたかもベストであるように思い込みがちです。確かにその森林では成功しても、条件の異なる他の森林には通用しません。森林はひとつひとつ異なるため、森林管理の方法にスタンダードはありません。それゆえ、森林の状態をしっかりと知った上で、それぞれの森林に合った管理を行う現場主義が求められています。いくつかの森林の実例を見ながら皆さんと考えてゆきます。

また、木材生産という経済面だけではなく、森林と人間の関わりを多様なものにするために、バイオマスのエネルギー利用が期待されています。50年前に失った燃材としての関わりを新たな形で持ち直すことは、森林と人間の関わりの将来的な意義を深めるものと考えられます。それも事業化したバイオマス利用ではなく、小規模森林所有者が自家労働でバイオマスを収穫できるローテクな方法を模索します。

森林管理講座 Ⅲ： 講義テーマ：森林管理と人間 3-2



スカイウッドシューター

下記で紹介する著書「森林管理の理念と実践」第7章森林管理作業の実行 6 バイオマスの収穫より抜粋：(P153より)

人力でバイオマスを小出しにする新たな方法として、布修羅による簡易集材が注目されている。作業はスカイウッドシューターの上に間伐材を乗せるだけであり、間伐材の自重で滑り落ちるため、動力もいらない、安全でクリーンな方法である。林内に捨てられた小径木や、バイオマスとして集めることにコストがかかっていた林地残材や枝条を集めるのに最適である。少人数で少量の間伐木やバイオマスを搬出する作業に適しており、小面積所有の民有林での自力搬出やボランティアによる作業などに向いている。

著書：森林管理の理念と技術のご紹介

本書が提案する森林管理の4つの視点と3つのポイント

■ 4つの視点（本書「はじめに」より）

1. 地域の総体として生物多様性の地空間的な特徴を目指す視点
2. 森林をよく知り、最適な方法を選択する現場主義の視点
3. 森林に関わる良い意味での人間中心主義の視点
4. 生活面で失われた森林とのかかわりを新たに再構築する視点

■ 3つのポイント（本書「おわりに」より）

- 第一に森林管理にはスタンダードな方法や技術はない
- 第二に「何が大切か？」ということを常に自覚する
- 第三に森林管理の正しい理解を一般市民に広める

10/20 現在アマゾンランキング

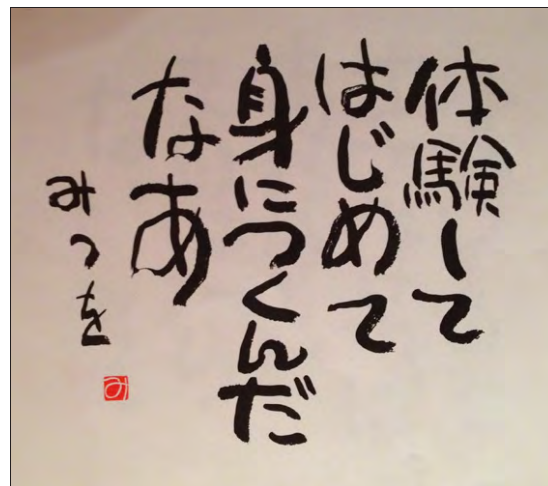
70位 本 > 社会・政治 > 環境・エコロジー > 環境保護

Amazon 森林管理の理念と技術 - 森林と人間の共生の道へ



案内人 山田容三先生のプロフィール

- 略歴** 1957年 兵庫県神戸市に生まれる
 1981年 京都大学農学部林学科卒業
 1983年 京都大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了
 京都大学農学部・森林総合研究所
 名古屋大学大学勤務を経て
 2015年 国立大学法人愛媛大学農学部教授
- 著書** 2014年 木力検定③森林・林業を学ぶ100問
 2012年 未来へつなぐたからもの-持続可能な社会を考える-
 2010年 森への働きかけ-森林美学の新体系構築に向けて-
 以上共著 他多数



森林管理講座 Ⅲ： GIS で管理された森林の視察 4-1

年月日： 2015年11月22日(日曜日) 時間： 午前8:30～13:00
集合場所： 国道320号・スーパー林道交差広場 集合時間： 午前8:20必着
視察会： 森信林業(株)の柿原第1団地 午前9:00～11:30 昼食 午後12:30まで
案内人： 森信光夫 非常勤講師 ご注意： 普通自動車登坂不可・弁当持参

..... 森の視察会のテーマ

地理情報システム (Geographic Information System) で 管理されている森を見ながら考える

視察会の概要

視察のテーマ

現場を見ながら森林GISと一緒に考える

お話ししたい内容

所有林である宇和島市柿原第1団地の現場で山林の状況を見ながら、どうして森林GISが必要だったのか、またそれによって何を、どのような過程で実現しようとしているのかを理解していただけたらと思っています。

視察説明のあらまし

1 私たちが取り組んだ山の管理

- ・境界調査のこと
- ・高密路網のこと
- ・森林管理GISのこと
- ・山林管理GISシステムの波及効果

2 何ができるようになったか

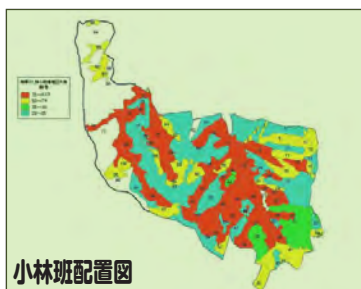
3 森林管理GIS成果についてのまとめ

4 林業経営に関する当面の課題

- ・毎年の収入
- ・山林を金融商品に
- ・生産目標をたてる
- ・資源量の表現
- ・伐採と更新の方法
- ・成長のスピード
- ・大径材のマーケット
- ・林業の位置づけ
- ・林業の会計処理
- ・多様な収入源

森林管理講座 Ⅲ: GIS で管理された森林の視察 4-2

視察ルートと柿原山第1団地の概要



案内人 森信光夫先生のプロフィール

- 略歴**
- 1949年 生まれ
 - 1972年 名古屋大学農学部林学科卒業
 - 1975年 東京大学大学院農学系研究科修士課程(林学専攻)修了
 - 1985年 愛媛県に就職
 - 2010年 森信林業株式会社 代表取締役専務
 - 2010年 愛媛大学大学院森林環境情報特別コース客員教授
 - 2013年 森信林業株式会社 代表取締役社長
 - 2015年 愛媛大学大学院森林環境情報特別コース非常勤講師

